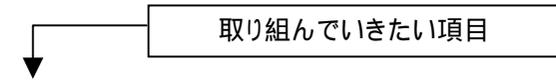


グループホーム馬借

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念			
	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念を作り、それに基づき運営に努めている。		現状通り取り組んでいきたい。
	理念の共有と日々の取り組み			
2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内入り口やデイルームなど、見やすいところに掲示し、実践するように取り組んでいる。		現状通り取り組んでいきたい。
	家族や地域への理念の浸透			
3	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホーム内の見やすいところに掲示するとともに、貸し出せるよう閲覧ファイルを作って玄関においている。また、利用者、家族に情報提供同意書を頂き、毎月のグループホーム便りを運営推進会議のときに配布し、ホームの活動を理解していただいている。		掲示や貸し出しをするだけでなく、積極的に言葉で伝え、理解をより深めたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい			
	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近くの理容室を利用したり、旦過市場や魚町銀天街などに散歩や買い物に行き、挨拶するなど交流に努めている。町内会に入会しており、回覧板をまわす時はできるだけ利用者と一緒に行くことを心がけている。		今まで以上に町内の方と交流を深め、入居者が安心して生活できる環境にしていきたい。
5	地域とのつきあい			
	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の保育園との交流を季節の行事などを通じて行っている。また、2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、民生委員や地域包括支援センターの職員に参加していただき、交流を深めている。毎年夏祭りには沿道に見に行っている。少しずつだが、地域の行事にも参加するようになった。		保育園だけでなく、自治会や地域の行事にも積極的に参加していきたい。

グループホーム馬借

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	利用者、家族に同意をとり、排尿ケアについての事例発表を地域の会合でおこなった。市や地域からの要望があれば、積極的に参加するようにしている。		「地域に役立てることは何か」を利用者への支援と共に話し合いの場を持ち実行できるようにしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に満足することなく、外部評価を真摯に受け止め、より良い活動が行えるよう話し合い実行している。		外部評価を受け、改めるべき所はすぐに改善し、今以上によりよいグループホームを目指し、日々向上していきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の現状報告を行い、問題点などある場合は意見交換し、サービス向上に努めている。		引き続き、運営推進会議で事例をあげ、助言を頂き、サービス向上に活かしていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	研修の講師としてお招きしたり、外部評価を改善するためにアドバイスを頂きに行った。生活保護受給者の場合、何かあれば保護課の方と連絡を取り、相談し、サービスの向上につなげている。		市町村担当者とも話し合いの場や交流の機会を持ち、サービスの質の向上に取り組みたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度については研修会があれば参加し、職員全員が資料を回覧している。利用者家族には必要と思われる場合は助言しています。生活保護受給者の方の場合にはケースワーカーに相談しています。利用者の中には実際に利用されている方もおられます。		資料の回覧だけでなく、職員全員が積極的に研修に参加し、知識を深めていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などに参加して、資料を全職員が回覧し勉強している。各ユニットミーティングと全体ミーティングで入居者の状態について共通理解を徹底しています。また、日ごろから虐待を見過ごすことが内容注意している。		同上

グループホーム馬借

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約・解約時は必ず文書と口頭で納得していただけるよう説明している。また、質問しやすい雰囲気作りに努めている。</p>		<p>緊急時の対応についての指示書を家族から頂き、緊急時に備えるようにしている。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に苦情箱を設置し、直接言いにくいことは苦情箱に入れてもらうようにしている。また、話しやすい雰囲気作りに努めているため、直接職員に言われる場合もある。その時は話を聞き迅速な対応を心がけている。運営推進会議では、利用者代表や家族が直接意見や苦情を話せる機会を設けている。</p>		<p>引き続き、意見・不満・苦情が話しやすい雰囲気を保ち、利用者の表情、受け答えの反応を見落とさず、常に声かけし、ゆっくりと話を聞くようにし、迅速な対応に努めていきたい。苦情箱は設置しているが、機能していないため、アピールしていきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月「グループホーム便り」を発行し、日々の生活などを報告している。健康状態は来所時に伝えている。また、面会が少ない家庭に対しては、請求書送付時に伝えているが、変化がある時は電話にて伝え、状態を把握していただいている。職員の移動については来所時に伝えている。</p>		<p>平成20年4月より毎月の利用者の状態報告を担当職員が詳細に記入し、送付している。今後も続けていきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関先に苦情・意見箱を設置するとともに、相談窓口を設け、担当者が家族からの不満や要望を聞き、それらを運営に反映させるよう心がけている。問題があった場合等は運営推進会議などで報告するようにしている。</p>		<p>現状通り取り組んでいきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>責任者は運営に関する職員の意見や提案を聞き、その都度管理者に伝え話し合いを儲け、反映させている。</p>		<p>現状通り取り組んでいきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>様々な状況に応じて勤務の調整を行い、柔軟な対応を心がけている。行事や職員数が足りない時は、管理者や責任者が入り、利用者や家族の状況の変化や要望にこたえることができるようにしている。</p>		<p>現状通り取り組んでいきたい。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者と職員の関係を重視した、職員配置を行っている。新しく職員が入る時は、利用者へ紹介し、名札をつけるなど、利用者が混乱しないように配慮している。</p>		<p>現状通り取り組んでいきたい。</p>

グループホーム馬借

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員の募集、採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。事業所で働く職員については、その能力を十分に発揮して生き生きと勤務し、研修のお知らせをして、参加できるような環境を整えることで、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している。</p>		<p>現状通り取り組んでいきたい。</p>
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>研修などに参加しているが、職員全員が参加することはできないので、勉強会の時などに全体的に伝わるようにする。</p>		<p>人権教育啓発活動に積極的に取り組んでいきたい。</p>
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>様々な研修に参加を促し、技術知識の向上に努めている。また、参加できなかった職員には勉強会などで発表し、資料は回覧している。日常の業務でも、お互い注意し合い学べるよう職員間のコミュニケーションが取りやすい環境でいられるよう配慮している。</p>		<p>現状通り取り組んでいきたい。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に参加し、同業者と交流の機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会を通じてサービスの質を向上させていく取り組みを行っている。</p>		<p>グループホーム協議会に参加し、同業者との交流も図れ、また、情報交換ができるようになった。職員に伝えていき、サービスの向上につながるようになってきている。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ストレス軽減を目的とした職員同士の交流会を行っている。また、運営者が食事回を開催し、話しやすい雰囲気作りをしている。</p>		<p>現状通り取り組んでいきたい。</p>

グループホーム馬借

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員各々に利用者の担当を決め責任をもって仕事に取り組めるようにしている。		現状通り取り組んでいきたい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談面接に見えた時に、問題点を良く聞き、解決できることを伝え、不安を取り除き、安心して生活できることを伝えている。		現状通り取り組んでいきたい。
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の面接時、問題点を聞き相談にのり、問題に対しての解決策を話し合い、安心して生活できることを伝える。また、入居後も問題があれば相談してもらい、すぐに問題解決の話し合いができることも伝えておく。		現状通り取り組んでいきたい。
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族との話し合いの上、最もニーズのある支援、サービスを考慮し、対応している。		現状通り取り組んでいきたい。
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族などと相談しながら利用者が混乱しないように時間を工夫している。		現状通り取り組んでいきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	普段、何気ない会話より本人の興味や得意なこと、できることを探し、一緒にできることはないか等、ミーティングなどの時に話し合い実行している。		現状通り取り組んでいきたい。

グループホーム馬借

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	毎月の行事など、家族の方が参加できることがあれば声かけし、できるだけ参加していただき、一緒に楽しんでいただけるよう工夫している。また、その時に職員も家族とコミュニケーションをとるように心がけている。		現状通り取り組んでいきたい。
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	毎月のグループホーム新聞に加え、日常生活の状態報告書を家族に渡し、日常の生活を知ってもらうように努めている。また、暑中お見舞いや年賀状をだし、家族間の絆がなくなないように支援している、		時には行ける範囲で本人のなじみのある場所や以前住まわれていた家などに一緒に行くことができるように考えていく。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	もともとホームの近所に住んでおられえた方が多く、旦過市場や近隣のお店に顔なじみの方が多いため、関係が途切れないように定期的に散歩や買い物に行き支援している。		現状通り取り組んでいきたい。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	状況を見て職員が間に入り、会話を盛り上げ、笑顔を大切に接し、楽しくマイペースな生活が送れるように努めている。		現状通り取り組んでいきたい。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	近所で会ったら話しかけ、様子を伺って気遣い、関係がなくならないように大切にしている。また、在宅復帰されても、再度居室に空きがあれば入居できることを伝え、空きがない場合でも、じょうきょうに応じて相談を受け付け、本人家族が満足したサービスが継続できるように支援している。		現状通り取り組んでいきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望する生活の実現に向けてその内容の理解に努め、医師にそえるよう心がけている。		現状通り取り組んでいきたい。

グループホーム馬借

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との日々の会話の中から生活歴をを理解し、また、家族からの情報により把握に努めている。		現状通り取り組んでいきたい。
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	規則正しく、その人らしく生活できるよう心身の状態を理解し、日々の変化など現状把握に努めている。		現状通り取り組んでいきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ミーティング前に家族より話しを聞き、ユニットミーティングでモニタリングを行い、目標を確認している。モニタリングを踏まえ、計画作成担当者が介護計画を作成している。		現状通り取り組んでいきたい。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回モニタリングを行い、短期目標が達成できているか確認している。達成された場合は、新たに目標をたてて新しく計画を作成している。		現状通り取り組んでいきたい。
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録やモニタリングを通じ、現状把握に努め、介護計画を定期的に見直している。		日々の様子、ケアの状態をその日の職員全員が把握し、気づきや工夫などは朝夕の申し送り時に話し合っている。また、休みの職員には必ず口頭で伝えるか申し送りノートに記入し、情報を共有しながら実践や介護計画に活かしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医院、デイケア、介護支援センターが併設しており、本人や家族の要望に応じて相談し、支援している。		現状通り取り組んでいきたい。

グループホーム馬借

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	子どもが好きな利用者が多いので、近隣の保育園と交流し、子どもとのふれあいの時間をつくっている。		避難訓練時には消防署の方に来ていただき、救急処置の方法を教えてください。ボランティアも積極的に受け入れて支援につなげていきたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現状維持を目的として、リハビリや訪問マッサージを利用されている。利用に際し、家族へ説明したり、事業所へ利用者の情報提供をするなどの支援をしている。		現状通り取り組んでいきたい。
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議にて包括支援センターの方との意見交換や助言を頂き、それをプランに反映させている。利用者について総合的なケアについて相談できるようになった。実際、排泄ケアで相談し、改善したれいもある。その事例を包括からの依頼で地域の会合で発表した。		現状通り取り組んでいきたい。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特にかかりつけ医の指定がない人は、併設の貞元内科医院に定期的に、家族もしくは職員が付き添い受診している。他医院の場合は家族より受診結果をよく聞き介護に取り入れている。内科以外の場合はその病状にあった病院を紹介してもらい家族に連絡し、受診するようにしている。		現状通り取り組んでいきたい。
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて協力医療機関を定期的に受診し、その都度、指導助言をうけ、認知症の悪化防止に努めている。		現状通り取り組んでいきたい。
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関の看護職員と、日々、利用者の状態を相談し、医学的な意見をもらっている。		現状通り取り組んでいきたい。

グループホーム馬借

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した時は、病院の医師や看護師、ソーシャルワーカーと連携し、状態把握に努め、できるだけ早く退院できるようにしている。		現状通り取り組んでいきたい。
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人、家族、医師と話し合い方針を確認している。		急変時の指定書を作成し、家族に説明し、記入していただいている。
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	各々利用者が重度化してきた場合、かかりつけ医と話し合い、状態を把握してできること、できないことを見極め、スタッフ全員が一丸となって支援するようにしている。また、今後の変化に備えてよく話し合いの場を持ち検討、準備している。		家族に指定書を記入していただいている。終末期におられる利用者の受け入れについて関係者間で話し合った。できる限り、指定書に従って意見を尊重したいが、24時間医療スタッフが常駐していないことや、ハード面においても整っていない為、現段階では、医療行為が必要になった場合の入居は難しい。
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ケア関係者と情報交換を行い、住み替え時のダメージを防ぐようにしている。言葉に気を配り、プライバシーを守るように心掛けている。		現状通り取り組んでいきたい。
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いに気をつけ、年長者である利用者に対して尊敬の心を持ち、話すように心がけている。また、プライバシーを守るよう心がけている。		利用者に危険が及ぶような時は話してもわかってもらえなくなり、つい強い口調になったりするが、できるだけ根気良く優しい口調で話すように心がけている。また、なれなれしい対応になってしまうこともたまにあるので、職員同士その都度注意し、改めるよう心がけている。

グループホーム馬借

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の意思や希望を導き出せるような声かけをし、自己決定していただけるよう努めている。		現状通り取り組んでいきたい。
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の職員の人数で多少異なるが、「今日はなにがしたい?」と尋ね、散歩やレクリエーションなど、入居者一人ひとりのペースにあった生活で、ゆっくり楽しく過ごしていただけるよう、心を開いた会話と支援をしている。		一人ひとりのペースで生活できるように支援が出来るように検討を重ねたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容室がグループホームの近くであり、そこを利用されている方にはスタッフが付き添い、送迎している。日常生活の中で身だしなみには気をつけ、毎日の髭剃りや外出時のお化粧品など自由にできるよう声かけ、配慮している。		現状通り取り組んでいきたい。
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや胡麻すりなど、いっしょにすることがある。時にはおやつ作りを一緒に手伝っていただいている。		一緒にできることを探していきたい。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者が買い物に行き、食べたいものを購入し、食べている。		現状通り取り組んでいきたい。
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを理解し、気持ちよい排泄の支援に努めている。		現状通り取り組んでいきたい。

グループホーム馬借

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は現在、火曜日と金曜日に決めている。以前より週3回にできないかと検討しているが、職員の人数の都合で、安全な入浴サービスを提供するには現状では無理がある。また、利用者の介護度も重度化してきており、現状が精一杯の状況。しかし、必要に応じてはシャワー浴や予備日として土曜日を設けている。時間はその日の予定に合わせている。		週3回の入浴を引き続き検討していきたい。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	気持ち良い休息、眠りの為、状況に応じた室温調整や寝具の清潔に努め、また、日々適度な運動に心掛けている。		現状通り取り組んでいきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の趣味など理解し、生き生きと生活できるような場面作りに心がけている。		もう少し役割やその人の力を行かせるような場を増やす必要がある。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	散歩に行ったときの買い物や、月1回の買い物ツアーに参加していただき、金銭感覚がなくならないように支援している。また、家族からお小遣いをお預かりする時は、毎月金銭管理報告書を家族に渡している。		現状通り取り組んでいきたい。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物など天候の良い日は外出支援している。		現状通り取り組んでいきたい。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月の行事で普段いけないところへ外出している。また、行事の際に家族に声かけし、一緒に楽しんでいただけるよう配慮している。		現状通り取り組んでいきたい。

グループホーム馬借

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい時には2階の公衆電話を利用させていただいている。利用する場合は職員が付き添い、援助している。年賀状や手紙が送られてきたら返事が書ける利用者には書いていただき、送付している。		現状通り取り組んでいきたい。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問できるグループホームを目指しており、玄関前に花を植え、明るくしたり、いつも笑顔で、歓迎の心で挨拶したりと、気楽に訪問していただけるように職員一同工夫している。		現状通り取り組んでいきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関して、カンファレンスをひらいたり、研修会の資料を回覧している。現在、拘束はしていない。		カンファレンスを引き続き開き、身体拘束ゼロを継続していききたい。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出する時は声をかけ、職員と一緒に歩いていくようにしている。しかし、職員が同行するのを拒否する方もいらっしゃるので、警察や民生委員に協力していただき、できるだけ自由に外出ができるように配慮している。		現状通り取り組んでいきたい。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の所在を確認し、安全に気を配っている。		最近1人の利用者が職員に無断で外出することを頻繁に繰り返し、安全面が心配なので、必ず外出する時は声かけをお願いするとともに、GHのCMの名刺を財布に入れてもらい、何かあれば対応できるようにしている。又、交番にもお願いしている。
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な物品に関しては、置く場所を決めており、また、各利用者担当の職員が環境整備を一緒に行い、安全に過ごすことができるように一人ひとりのレベルに合わせて危険を取り除いている。		現状通り取り組んでいきたい。
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者一人ひとりの事故のリスクについて、それぞれ専門職から助言をもらい、ケアの方法について学んでいる。ヒヤリハットを記入し回覧している。事故を未然に防ぐことができるように見守りの徹底など工夫している。		現状通り取り組んでいきたい。

グループホーム馬借

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	火災訓練は定期的に行っているが、応急手当や急変などについての初期対応の定期的な訓練はない。		火災訓練時に急変時や応急処置について訓練を行っていききたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回災害訓練を実施し、昼夜を問わず入居者が非難できるように訓練している。また、近隣の住人の方々と顔なじみになるように散歩や買い物、回覧板回しなどで心掛けている。		消防署に連絡し、救命法やAEDに使い方の講習会を開いていただけるよう検討している。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族が面会に来た時に昼夜の状態を話し、起こりうるリスクについても話をしている。リスクの対応については、家族にも相談し、入居者自身に圧迫感のない生活をしていただいている。		現状通り取り組んでいきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化や異変など、毎日の日誌に記録し、情報を共有している。		現状どおり取り組んで生きたい。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に内服薬について記載されており、理解している。状態の変化、処方など変わった場合、申し送り、連絡ノートに記載し、スタッフに伝わるようにしている。朝の申し送り、夜勤入りの時説明を受ける。		全ての薬については理解していない。院長に聞くなどして、理解に努めたい。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取の声かけや体操、食事内容を工夫し、排便チェックしている。便秘が続く場合は、院長に相談し、薬が処方されている。		現状通り取り組んでいきたい。

グループホーム馬借

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりに応じた口腔ケアを行っているが、毎食後ではない。		最近、義歯が合わず、食事が摂取できないため、義歯を装着していない方が2名おられる。歯科医と相談し、口腔内の清潔保持に努めたい。
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を毎日把握し、支援している。		現状通り取り組んでいきたい。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを作り、手洗い、うがいに注意し、実行している。また、トイレや手洗い場に手洗い方法や汚染時の対処法をいつでも目につくところに貼っている。感染予防のため、全館ペーパータオルを使用している。		現状通り取り組んでいきたい。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所や食材については、衛生管理を徹底し、食材は旬な素材で、新鮮なものを使用している。		現状通り取り組んでいきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周囲に植木や花を植え、明るく親しみやすいようにしている。		現状通り取り組んでいきたい。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に、雛人形や五月人形など、季節に応じた飾り物をおいて季節感をだしている。		現状通り取り組んでいきたい。

グループホーム馬借

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭い中にもソファなどですりでも距離を置くことができる場所作りをしている。		現状通り取り組んでいきたい。
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものを居室にて使用していただき、居心地のよい環境の提供に努めている。		現状通り取り組んでいきたい。
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気、温度調整は季節に合わせ、また、本人の空調なども配慮し行っている。		現状通り取り組んでいきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要と思われる場所に手すりをつけ、危険と思われるところには物の配置に気を配り安全に努めている。		現状通り取り組んでいきたい。
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自力歩行だがいまいち歩行が不安定な方は、居室内に手すり代わりに椅子を配置するなど工夫している。また、混乱や失敗が生じた場合は、傷つけないように配慮しながら声かけしている。		現状通り取り組んでいきたい。
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の玄関周りのわずかな空間を利用し、草花の植え替えを行っている。		現状通り取り組んでいきたい。

グループホーム馬借

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム馬借

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

街中であるという利点を活かし、勝山公園や旦過市場に行くことで、利用者さんには楽しんでいただいている。また、小倉祇園などではホームの前を通過していただき、利用者には身近に季節感を感じていただいている。わっしょい百万夏祭りでは、ホームの近くにみんなで行き、花火見物をし、利用者さんには大好評だ。職員と利用者さんが和気あいあいと和やかな雰囲気毎日暮らしている。これからも我が家にいるような雰囲気でいつまでも楽しくみんな暮らしていけるように支援していきたい。